



「東京水道経営プラン2021」令和4年度事業評価



本資料は、経営計画に掲げた施策の達成状況及びその評価を報告するものです

評価結果を分かりやすく公表し、都民へのアカウンタビリティを確保すること及び評価結果を事務事業や予算編成に反映し、経営効率の一層の向上を図ることを目指し、事業評価制度を導入しています。現在、東京都水道局では、令和3年度を初年度とする5か年の「東京水道経営プラン2021」（経営計画）に基づいて事業を運営しています。今回は令和4年度の達成状況を報告するものです。

東京水道経営プラン2021とは

「東京水道経営プラン2021」は、おおむね20年間の事業運営の基本的な方針である「東京水道長期戦略構想2020」（令和2年7月策定）で掲げた目指すべき将来の姿を実現するための経営計画であり、「強靱で持続可能な水道システムの構築」、「お客さまとつながり、信頼される水道の実現」「東京水道を支える基盤の強化」を3つの柱としています。

令和4年度に実施した取組を紹介します

I 強靱で持続可能な水道システムの構築

(1) 水源対策

☞詳細は1～2ページ

水を育む豊かな森を守り、小河内貯水池の保全、安定した河川流量の確保のために、水道水源林の適切な管理・保全等を実施しました。

○多摩川水源森林隊の活動
⇒**1,681人**(目標:1,500人/年)

○民有林の積極的購入
⇒**267ha**(目標:200ha/年)

○適切な管理・保全
⇒**611ha**(目標:600ha/年)



▲多摩川水源森林隊の活動の様子

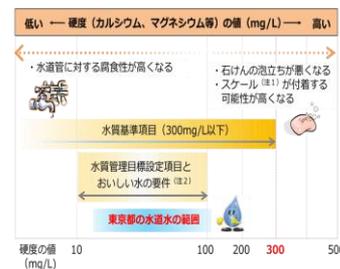
(2) 水質対策

☞詳細は3～5ページ

お客さまの水質に対する満足度向上のため、PFOS及びPFOA等に係るオープンデータ化の他、水質検査結果のデータ更新等を実施しました。

○あんぜん・あんしん水質指標の達成状況をホームページに掲載しました。

▶ 水道水の水質や安全性などの情報をグラフや図を用いてわかりやすく発信しています。



(3) 導水施設の二重化・更新、 送水管のネットワーク化・更新

☞詳細は6～10ページ

災害時や事故時においても安定給水を確保するため、送水管のネットワーク化などを実施しています。

多摩南北幹線の整備を計画どおり完了し、運用を開始しました。

- ▶ 多摩南北幹線のシールドトンネルの様子



(4) 施設の適切な管理と長寿命化

☞詳細は11～14ページ

安定給水の確保のため、浄水場等の予防保全型管理や浄水施設及び配水池の耐震化を実施しています。

- ▶ 耐震工事中の配水池の内部の様子（石畑給水所）



(5) 大規模浄水場の更新

☞詳細は15～16ページ

大規模浄水場の更新・需要に合わせて、適切な施設整備を実施しています。



◀ 施工中の境浄水場



- ▶ 境浄水場再構築後のイメージ
※このパースはイメージであり、今後変更される場合があります

(6) 給水所の新設・拡充・更新

☞詳細は17～19ページ

地域の給水安定性向上のため、給水所の新設・拡充・更新を実施しています。



- ▲ 王子給水所（仮称）
配水池を築造しています



- ▲ 深大寺給水所
拡充工事を実施しています

(7) 管路の更新・適正管理

☞詳細は20～23ページ

大規模な震災が発生しても被害が最小限に抑えられるよう、管路の耐震化を実施しており、**避難所や主要な駅等を含む約3,000の重要施設への供給ルートにおける配水管の耐震継手化は概成しました。**

○耐震継手化・更新⇒**約453km**(目標:3,500km/10年間)

▶重要施設への供給ルート

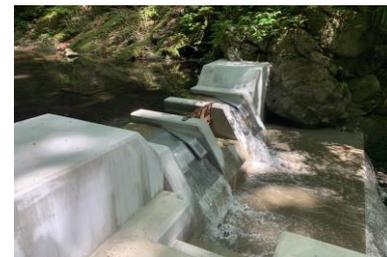


(8) 多摩地区水道の強靱化

☞詳細は24～26ページ

地域特性に応じた効率的な施設管理や給水の安定性向上のため、浄水処理(膜ろ過設備)の導入や風水害対策等を実施しています。

- ▶カロー谷取水所において、取水施設の改良(ウォータースクリーン設置)を実施しました



(9) 災害対策

☞詳細は27～34ページ

震災等による大規模な停電時においても、安定的に給水が確保できるよう、自家用発電設備の新設・増強を実施しています。非常用発電設備を3か所で整備完了しました。



▲美住増圧ポンプ所
(非常用発電設備)



▲程久保増圧ポンプ所
(非常用発電設備)

(10) 新技術を活用した水道システムの構築

☞詳細は35～37ページ

お客さまサービスの向上や業務の効率化のため、AIやICT等デジタル技術の導入を実施しています。また、スマートメータの導入・運用も進めています。

- ▶約2万6千個の給水スマートメータを設置し、令和4年10月から自動検針等を開始しました



(11) お客さまとの双方向コミュニケーション

☞詳細は38～40ページ

水道事業に対するお客さまの理解を深めていただくとともに、お客さまニーズを的確に把握し、事業運営に反映するため、水道サポーター制度や学校水道キャラバン等を実施しました。

○学校水道キャラバンの実施⇒**1,210校**(目標:1,200校/年)



▲水道サポーター交流会



▲水道キャラバン

(12) デジタル化の促進によるお客さまサービスの向上と業務の効率化

☞詳細は41～43ページ

お客さまサービスの向上と業務の効率化を図るため、「**東京都水道局アプリ**」をリリースしました。また、キャッシュレス化やペーパーレス化の促進等も着実に進めています。

○「東京都水道局アプリ」ユーザー登録数⇒**約76万人**

(令和4年度末時点)



▲スマホで水道料金のお支払いができます



▲アプリアイコン

(13) 災害時の応急給水対策

☞詳細は44ページ

災害時の対応力を高めるため、年間を通じて450回以上の訓練を実施しました。また、水道工事関連団体が独自で行う訓練に協力し、団体との連携強化を図りました。



▲水道工事関連団体が独自で行う訓練を補助



(14) 環境対策

☞詳細は45～48ページ

効率的な事業運営を図りながら、環境に配慮した事業運営を実現するため、省エネ型ポンプ設備の整備や水源林・玉川上水の保全を実施しています。



▲省エネ型ポンプ設備の更新
(江東給水所の配水ポンプ)



▲下草刈りによる維持管理
(玉川上水)

(15) 業務運営体制の強化

☞詳細は49～50ページ

効率的かつ効果的な業務運営体制の構築のため、政策連携団体への業務移転を着実に実施したほか、人材の相互交流や、グループの総合力をより一層高める取組等を実施しました。

- 葛飾営業所、練馬給水管理所及び小作浄水場（水質管理業務）を業務移転しました。
- 性能発注方式による包括委託の導入に向けて、モニタリング方法等の仕組みについて検討を行いました。



▲「ともにプロジェクト」グループ研修の様子

(16) 人材確保・育成

☞詳細は51ページ

将来の水道事業を担う人材を育成するため、東京水道グループの人材育成や水道工事事業者の環境改善を実施しました。

- ▶ 経験豊富な主任等をOJTの推進役として位置づけた新たなOJTを全職場で実施しました。



(17) 他事業体貢献

☞詳細は52ページ

国内水道事業体の基盤強化に向けた支援を実施しました。また、諸外国における人材育成や技術支援を行うことで、途上国の諸都市の水道事情の改善に貢献しています。



- ▶ 大島町への技術協力（漏水調査技術の助言等）

「東京水道経営プラン2021」事業評価に関するご意見・ご提案をお寄せください！

<https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suidojigyo/torikumi/hyoka/>

